

石原舜介理事長と想ふ

建設省建設経済局長

小 鷲 茂

石原理事長の突然の訃報に接し、驚愕と悲嘆の外なく、喪心より哀悼の意を表する次第であります。

石原理事長におかれましては、平成四年に設立された財団法人土地総合研究所の初代理事長に就任され、これまでに土地及び不動産に関する数多くの調査研究に尽力されるとともに、その高い識見をもって建設行政・国土行政の発展に多大の貢献をされました。

中でも、不動産行政・宅地行政の分野におきましては、住宅宅地審議会の委員として昭和四十七年から昭和六十一年までの長きにわたり指導的なお立場で御活躍されました。特に昭和五十一年から宅地部会長として取りまとめていただきました幾多の御提言は、宅地建物取引業法の改正等となって結実しているなどその御功績は枚挙に暇がなく、不動産行政・宅地行政の発展の基礎を築かれたと言っても過言ではありません。

また、昭和五十八年には、いち早く我が国の不動産に関する総合的な教育研究体制の整備の必要性を訴えられ、産、学、官の各界の有識者の参画の下に、日本不動産学会の設立に尽力され、卓抜した識見と暖かいお人柄でその指導に当たられるとともに、不動産学部を我が国で初めて明海大学に創設されるなど、不動産に関する学術研究分野の発展にめざましい貢献をされたことは広く知られているものと存じます。

さらに、建設省においては、現在、いわゆるバブルの崩壊後の社会経済情勢の変化等を踏まえて新たな不動産の指針を示すべく不動産リノベーションの策定に取り組んでおりますが、石原理事長は、これまで取りまとめられた二度の不動産ビジョンに引き続き、研究会の座長として御活躍していただいている中での突然の訃報であっただけに残念でなりません。

私どもといたしましては、石原理事長のこれまでの御功績、卓越した識見による御指導と御遺志を受け継ぎ、今後とも不動産行政・宅地行政の更なる発展に努めて参りたい思います。

なお、個人的には、ゴルフ仲間の一端に加えて頂いていた関係上、石原理事長の風格ある雄姿が目に焼き付いて離れません。

心からご冥福をお祈り申し上げます。